

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「伊那市、“ライブ” で買い物支援実験」
  - 2) 「楽天が“海の家” を遂に7/15にオープン！その狙いとは」
  - 3) 「あえて凍らせる！日本初“冷凍食品レストラン” 」
- 

### 1) 「伊那市、“ライブ” で買い物支援実験」

長野県伊那市は7月中旬に郊外に住む高齢者の買い物を支援する実験を始める。市街地の店舗と高齢者が集まる郊外の公民館とをインターネットでつなぎ、映像を介して商品を販売する。高齢者が購入した品物は、路線バスの空きスペースに載せる「客貨混載」方式で公民館まで配送する。中山間地域の多い長野県では買い物弱者の支援策が課題の一つ。同市はモデル実験を重ねて日常的に買い物弱者を支援する仕組みを探り、他地域へも支援を広げる。

全国的に珍しい取り組みだ。伊那市は2016年度の予算にタブレット端末やプロジェクターなど機器の購入費用として100万円を計上。市街地の商店主で作る活性化組織「伊奈まちの再生やるじゃん会」と連携して実施する。

対象地域は伊那の中心街から10キロほど離れた新山地区。同地区の「新山集落センター」に高齢者に集まってもらい、センターに設置したプロジェクターでJR伊那市駅前の店舗の映像を映す。店員がタブレット端末を使って商品の映像を送り、センターにいる高齢者と会話をしながら買い物をしてもらう仕組みだ。

7月14日の実験初日には、1店あたり10分程度で、食料品店も含め3店舗とセンターをつなぐ。センターでは、伊那市の委嘱で活性化に取り組む地域おこし協力隊員が高齢者の注文や会計をとりまとめる。

品物の輸送などには、同区内を周回して伊那市駅前までを結ぶ路線バスを使う。この路線は午前と午後1便ずつ発着するため、午後の便で品物をセンターまで送り届ける。高齢者には午前の便などでセンターに来てもらい、午後の便まで市による認知症予防のイベント「脳いきいき教室」に参加してもらう。バスは伊那市などが作る伊那市地域公共交通協議会が地元のバス会社に運行を委託している。1便あたりの平均乗車人数は2015年度に4人と低迷している。同市企画課の担当者は「買い物弱者の支援策と合わせてバスを有効活用し、バス網を維持したい」と話す。

買い物支援だけでなくバスの有効活用や地域の交流、認知症予防のイベント参加など、様々なことを盛り込んだ良い取り組みだと感じた。一箇所に集まり、地域の方と交流し合えるのはお年寄りにとっても嬉しいことだ。珍しい取り組みではあるがぜひ広まってほしい。

---

### 2) 「楽天が“海の家” を遂に7/15にオープン！その狙いとは」

楽天は、7月15日から8月31日の期間限定で、湘南江の島に海の家「Rakuten Beach CAFE」を初めて出店する。「Rakuten Beach CAFE」は、海の家というタッチポイントを通じて、楽天グループの各サービスの特性を生かした飲食やイベント企画などを提供することで、湘南江の島に遊びに来る若い世代やファミリー層に、サービス内容を身近に感じてもらい機会に繋げることが趣旨である。

約15種のフードメニューには、「ぷるるんホルモン焼きそば（店舗名：食福亭 味革）」など楽天市場で人気のお取り寄せ商品を使用したメニューや、楽天レシピの熱中症対策メニュー「夏野菜ガパオごはん」などを含む。ボリューム満点の「MEGA盛り」特別メニューも毎週月曜日に提供する。

設備は、イートインスペースの他、有料エリア内にシャワールーム、ロッカールーム、体験スペース「シエスタエリア」を設ける。また、7月1日よりサービスを開始した「Rakuten.FM」のサテライトスタジオも併設している。海の家スタッフは、楽天市場のアプリ店舗であるSILVER BULLETが監修し、実際に販売している商品をユニフォームとして着用している。

「Rakuten.FM」とは、iOS版とAndroid版アプリ、ブラウザのウェブサイトから様々なジャンルの音楽やトーク番組を、インターネットを通じて無料で聴くことができるインターネットラジオ配信プラットフォームである。また、参画コンテンツ・プロバイダーは自ら制作した音声コンテンツを配信することができるようになっており、将来は広告配信などによる収益獲得機会の提供も予定していく。実際にラジオを配信している姿を見ることができる場所は「Rakuten Beach CAFE」だけだ。ラジオのファンはもちろん、「Rakuten Beach CAFE」に遊びに来た人も、サテライトスタジオを観るとファンになる可能性もあり、今後ラジオを聴いてくれるようになるかもしれない。

2016年の夏は猛暑になるという予想が気象庁より発表されているが、楽天は、海の家を通じて、オンラインとオンラインをつなぐことで、暑い夏でも足を運びたいくなるような、楽天らしい夏の体験を提供していく。

楽天は、ショッピングモールだけでなく、ラジオにテレビにとメディアにも力を入れてきている。それは楽天の宣伝効果にも繋がるが、同時に、ユーザーを楽しませている。楽天は、この“ユーザーを楽しませる”というところに重点を置いているのではないだろうか。今回の「Rakuten Beach CAFE」で暑い夏を涼しく過ごすユーザーが増え、かつ、楽天の好感度も上がることだろう。

すでに楽天カフェなどを通じてネットとリアル融合で消費者に向けたアピールを強化しているが、さらにそれが「海」という非日常で気分が上がっている人が多い所というところであるのが今回のポイントだと思う。ラジオブースがあることで雰囲気も高まるだろうし、人の記憶により残りやすいのではないかと思う。

---

### 3) 「あえて凍らせる！日本初“冷凍食品レストラン”」

玉川高島屋S・C南館7Fにある、日本初の冷凍食品レストラン『TOKYO BREJEW HOUSE（トーキョーブレジューハウス）』をご存知だろうか。

同店のコンセプト「保存するための冷凍から、美味しくするための冷凍へ。」の通り、あえて凍らせるという調理法を取り入れたユニークなレストランだ。

一人暮らしの筆者にとって、冷凍は食べきれない料理、使い切れない食材の保存期間を伸ばす手段であるが、このレストランは違うらしい。

二子玉川駅を降りてすぐ見える玉川高島屋に『TOKYO BREJEW HOUSE』はある。

店の前にいくと、平日の昼にも関わらず多くの人が集まっていた。そんな活気につられ店内へ。入り口には、週替りのパスタソースが紹介されている。店内はテーブル席とカウンター席があり、隣の席とのスペースは十分とられている。三面ガラス張りのため、昼時は日差しを浴びながら気持ちよく食事を楽しめるのもポイントが高い。

12時を回るとテーブル席はほぼ満席になり、人気の高さが伺える。

メニューはシンプルで見やすい。

三種類のランチコースとアラカルトからチョイスできる。

入り口では、同店を展開する『brejew (ブレジュ)』のオリジナルの冷凍食品を販売。

レストランで食べた料理を、自宅でも楽しめるのだ。

入り口に絶えず人が集まっていた理由はこれだ。

ちなみにオリジナル冷凍食品は、オンラインショップでも購入できる。時期によっては品切れもあるようだが、今は在庫に余裕がありそうだ。価格は少々高めだが、好立地なので買い物から立ち寄れるのはうれしい。あえて冷凍するという調理法、今後ますます流行りそうな予感がする。

### 「TOKYO BREJEW HOUSE」

住所：東京都世田谷区玉川3-17-1 玉川高島屋S・C南館7F

営業時間：11:00~23:00

電話番号：03-5797-9935

定休日：1月1日

冷凍食品のクオリティもどんどん上がってきているが、レストランとなると少し受け入れがたいのかとと思っていた。ところが人気というので驚いた。冷凍を感じさせないほどの味だということが分かる。どんな店でも食品ロスを減らすために冷凍しているとは思いますが、「あえて」という点が面白い。食品ロスの心配もなくなるので今後こういった店は増えていくのだろう。